

米子市学校教育ビジョン

本ビジョンは、米子市における教育全般についての総合的プランである「米子市教育振興基本計画」に基づき、今後の米子市の学校教育の方向性を示したものです。

米子市教育委員会事務局学校教育課

米子市の教育基本理念

ふるさとに学び 未来へつなぐ 学ぶ楽しさのあるまち米子

米子市の基本目標

(1) 心を育む学びのあるまち

心の豊かさを持つとともに生きがいがあふれる豊かな人生を送ることができるよう、人と人との関わり合いの中で、互いに認め合いながら心の交流を図ることのできる学びの機会の提供に努めます。

<目指す子どもの姿>

- 互いの違いを認め合いながら、自他の命の大切さや他人を思いやる心を持っています。
- あいさつや感謝など、自分の気持ちが表現できるとともに、課題解決のための行動がとれます。

(2) 学ぶ楽しさのあるまち

学んだことをいかしながら創造力と実践力が育まれるよう、どの世代においても様々な体験を通して発見や豊かな学びが獲得できる場の提供に努めます。

<目指す子どもの姿>

- 学習の基礎・基本がしっかり身についています。
- 学ぶ楽しさを知り、自ら課題を見つけ進んで学ぼうとする姿勢があります。
- 学んだことを生活や行動にいかそうという意欲を持っています。

(3) 郷土で育む学びのあるまち

米子市の財産である豊かな自然や歴史・文化遺産を保護・保存・継承・活用していくとともに、その魅力と価値を発信しながら、市民が郷土に誇りを持てる学びの創造に努めます。

<目指す子どもの姿>

- 米子の地理や歴史を学びながら、米子の自然や伝統・文化を理解しています。
- 郷土である米子を愛し、誇りを持ち大切にしています。

(4) 健康で安心して学べるまち

生涯にわたり健康で明るく活力ある生活を送ることができるよう、健康に関する情報発信や啓発を行いながら、誰もが目的や年齢等に応じたスポーツに親しむことができる場の提供と全ての施設で安心して学べる環境整備に努めます。

<目指す子どもの姿>

- 規則正しい生活と適切な食生活を送り、健康的な体づくりを目指しています。
- 身の回りの生活の中の様々な危険から身を守るための知識や態度、実践力を身につけています。

米子市学校教育の指針

豊かな心と創造性をもった子どもの育成

昨今子どもたちには、他者の気持ちを思いやったり、協調したりする力や、自尊感情の希薄さが見受けられる。また、人口減少・少子高齢化社会を背景に、地域社会のつながり・支え合いの希薄化や、家庭・地域の教育力の低下に伴う子どもたちの規範意識の低下などが課題となっている。このような背景の中で、いじめ、不登校など、様々な課題が生じている。

こうした課題を解決するためには、自他を尊重する態度や、多様な他者とよりよく関わる力、自主的・自治的な力などを、学校と家庭・地域社会が一体となって育んでいく必要がある。

主な取組

① 心の教育の充実

思いやりの心を持ち、かけがえのない自他を尊重することの大切さを実感できるよう、豊かな体験活動や自主的・自治的な取組、道徳教育の一層の充実を図る。

また、支え合い共に生きる福祉の心や環境を大切にすることを育むとともに、家庭や地域社会との連携を図り、美化活動、ボランティア活動、交流活動などを通して、協力や奉仕の態度、実践力の育成に努める。

② 人権教育の充実

個性や価値観などの多様性を認め合い、他者の人権を尊重するとともに、自分に自信と誇りを持てる教育の充実に努める。

また、自他を尊重する態度を育成するため、人権に対する正しい理解を深め、人権問題を自らの問題として自覚できる豊かな人権感覚と、生活の中にある課題の解決を図っていく実践的な態度の育成に努める。

③ 生徒指導の充実

児童生徒の実態を的確にとらえ、個に応じたきめ細かな指導・支援の充実に努めるとともに、誰もが安心でき、安全で楽しい学校づくりのために、児童生徒の自主的・自治的な活動を推進する。

また、多様化する児童生徒の問題行動や、深刻化するいじめ・不登校の課題を解決するために、校内指導体制を一層充実させたり、多様な学びの場を保障したりするとともに、教育相談活動の充実や関係諸機関との連携を図り、学校と家庭・地域社会が一体となった生徒指導を推進する。

④ ふるさと・キャリア教育の充実

地域の人材や教材に触れることを通して、郷土の豊かな自然・歴史・文化遺産・伝統などを学び、郷土に対する誇りと愛着が持てる教育を推進する。

また、キャリア教育を充実させ、将来にわたって郷土を思い、様々な機会でも郷土を支えていこうとする態度や実践力を育成する。

確かな学力を身につけた子どもの育成

情報化やグローバル化、絶え間ない技術革新などを背景とした、予測困難で、個人では解決できない課題に直面するこれからの社会をたくましく生きていくためには、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力・人間性の醸成が必要である。こうした力を育成するためには、教師の確かな授業力、一人一人が持っている力を最大限伸ばすための個に応じたきめ細かな支援、ICTを活用しながらの効果的な指導などが必要である。

主な取組

① 学力の向上を図る学びの充実

学力や学習習慣の状況を的確に把握し、指導と評価の一体化、個に応じた支援、家庭と連携した学習習慣の定着などを行うことで、基礎的・基本的な学力の定着を図る。

また、ICTを効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を行うことで、思考力・判断力・表現力その他の能力の育成に努める。

② 特別支援教育・インクルーシブ教育の推進

ユニバーサルデザインの授業を行うとともに、個に応じたきめ細かな支援を可能とするための校内体制を整備する。

また、児童生徒の障がいの種類や程度、能力や適性に応じた多様な学びの場を保障し、特別支援教育を推進するとともに、共生社会に向けたインクルーシブ教育の充実に努める。

③ 切れ目ない支援体制の推進

就学前段階から義務教育段階、進学・就労段階に至る過程で、円滑な支援の引き継ぎが行えるよう、支援体制を整備する。

また、教育と福祉・医療・労働分野などの関係機関との連携体制を整備し、児童生徒の教育や支援の充実を図る。

④ 外国語・英語教育の充実

外国語指導助手（ALT）や地域人材の活用、教科担任制の実施、小中連携を行いながら、外国語・英語教育の充実を図る。

また、児童生徒のコミュニケーション能力の育成に努めるとともに、諸外国の多様な生活や異文化を理解・尊重する態度を育成する。

⑤ 情報教育とICT活用による授業の充実

必要な情報を主体的に収集、処理、発信する能力を育成するとともに、発達段階に応じて、情報モラルに関する意識を高め、高度情報化社会に対応できる態度や能力の育成を図る。

また、タブレット端末などのICT機器、ソフトウェア及び情報通信ネットワークを活用した授業実践に努める。

健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成

子どもを取り巻く生活環境の急激な変化などの要因により、体力・運動能力の低下・二極化傾向、外的要因による健康被害など、体力向上や健康の保持増進に関する課題が顕著になってきている。また、気象条件や社会的条件の変化により、子どもの命や安全を脅かす事態が身近に迫ってきている。一方、子どもたち自身の、命の重みに対する感受性が弱まっていることも指摘されている。

こうした課題の解決に向けて、体力・運動能力の向上、健康で安全な生活、自他の命を大切にすることを必要とする態度や実践力の育成が必要である。

主な取組

① 体力・運動能力の向上を図る取組の充実

発達段階に応じた適切な運動を行ったり、運動能力を高めたりするための指導方法の工夫改善を図り、児童生徒の体力・運動能力の向上に努める。

また、運動の楽しさや喜びを実感させることにより、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現に向けた意欲と実践力の育成に努める。

② 健康教育の充実

児童生徒の健康の保持増進を図るため、定期健康診断や健康に関する保健指導を実施し、疾病の防止や早期発見に努めるとともに、基本的な生活習慣の定着に努める。

また、食に関する知識を習得させるとともに、自然の恩恵や食に関わる人々への感謝の念を持てるように指導し、望ましい食習慣の形成に努める。

③ いのちの教育の充実

心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となる喫煙、飲酒、薬物乱用やメディア依存などに関する理解を深めるとともに、健康を害する状況に陥らないようにするための思考力・判断力の育成に努める。

また、人間の誕生の喜びや生きることの尊さを知り、自他の生命を尊重しようとする態度や実践力の育成に努める。

④ 防災・安全教育の充実

多様化・深刻化する自然災害・人的災害などへの備えを行うとともに、災害発生時及び発生後に、周囲の状況に応じて臨機応変に行動することなど、災害から身を守るための知識や態度、実践力の育成に努める。

また、身の回りの生活における様々な危険から身を守るために、それぞれの要因の理解や予測する力、状況に応じて適切に対応する力の育成に努める。